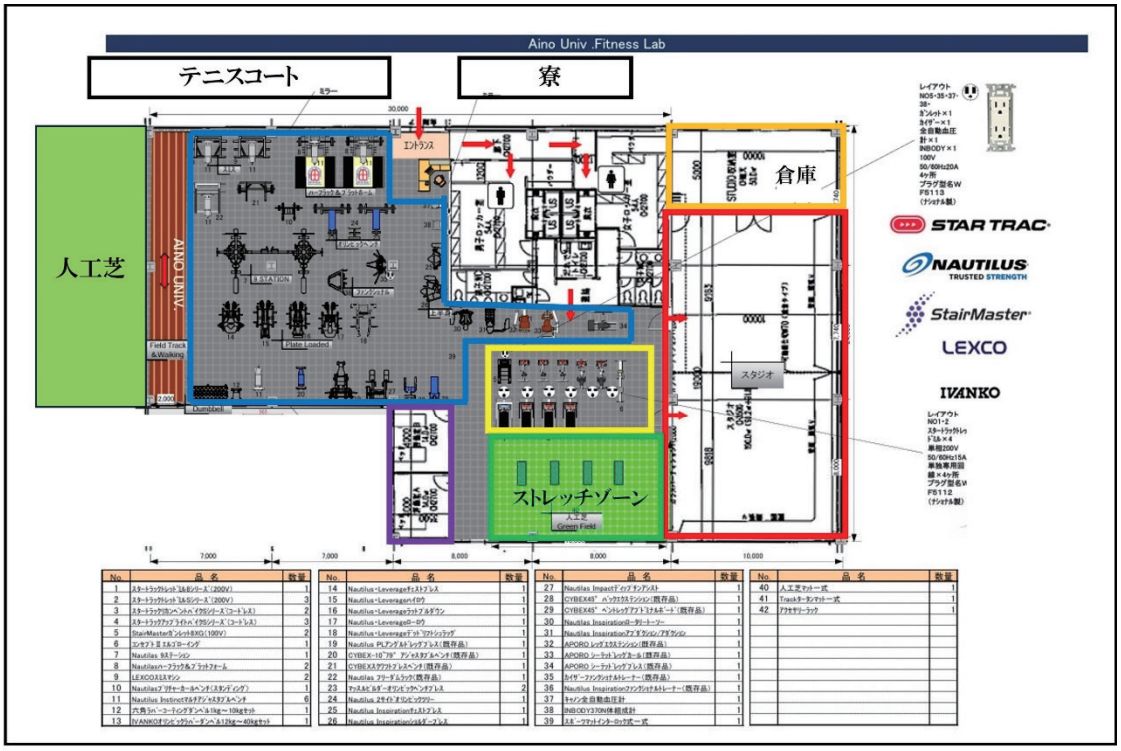
大学および学科便り

2024 年度 藍野大学医療保健学部の歩みと Aino Univ. Fitness-Lab.の紹介

医療保健学部長　後藤昌弘

2025 年度入学生に向けた藍野大学のパンフレットの表題「Transforming Aino Blue 変革する藍野大学」に表される通り、2024 年度の藍野大学はまさに変化の年であった。4 月には大学院健康科学研究科の 1 期生がスタートし、2025 年 4 月に開講予定の医療保健学部健康科学科が 7 月に、1 年間で臨床工学技士資格を取得できる臨床工学技士専攻科が 8 月に、養護教員免許の上位ライセンスを取得できる看護学研究科養護教諭専修課程が 12 月に、それぞれ文部科学省から認可された。また、藍野大学開学 20 周年、大学院看護学研究科開学 10 周年を記念して、現在の E 棟に Simulation-Lab.を、旧藍野高校跡地に Fitness-Lab.（通称 F-ラボ）を設置するとともに、ABC 棟の校舎リニューアル工事も実施した。

次に、学部および大学院生の授業や研究活動、学生・教職員の健康づくり、さらに子どもから大人までの健康増進を目的とした社会貢献活動等に利用される F-ラボについて紹介する。



Aino Univ. Fitness-Lab. (2025年3月末完成予定)

F-ラボは、横 40m、縦 24m、床から天井までの高さが 4m のバリアフリーの 1 階建てトレーニング・ジムであり、パーソナル・トレーナーやアスレチック・トレーナー資格を提供する NSCA や日本スポーツ協会などの施設基準を十分に満たしている。施設の構成は以下の通りである：

- 青枠で囲まれた「マシン＆フリーウエイト・トレーニング・ゾーン」
- 黄色枠で囲まれた「有酸素マシン・ゾーン」
- 緑枠で囲まれた「ストレッチ・ゾーン」
- 赤枠で囲まれた「スタジオレッスン・ゾーン」
- 紫枠で囲まれた「多目的室」
- 左端の「15m トラック・フィールド」

マシン・フリーウエイト・ゾーン には、オリンピックのウエイトリフティング競技が行える本格的なフリーウエイト機器から、一般の人が安全に各部位を運動できるトレーニング機器約 20 台が設置されている。

有酸素マシン・ゾーン には、歩行やランニングを行うトレッドミル 4 台、固定自転車 5 台、階段状のベルトを歩くステアマスター1 台、ボートを漕ぐローイングマシン 1 台が設置されている。4 台のうち 1 台は、踏みつけるベルトが非常にソフトで、歩行時に膝や足関節にかかる負担が軽減されるタイプである。

ストレッチ・ゾーン には、横 10m×縦 6m の人工芝が設置されており、成人 15 人が同時にストレッチや自重運動を行うことができる広さが確保されている。また、このゾーンの天井部には体重を支えられる頑丈なバーが 2 本配置されており、体幹ハーネス型のゴムサスペンションを用いた免荷運動や、サンドバッグを吊して行うボクササイズも実施可能である。

スタジオレッスン・ゾーン は、横 10m、縦 21m のスタジオであり、エアロビクス、ピラティス、ダンスなどを行う際に、保育の授業で子どもが遊戯を行う時に足を痛めないよう、床材には比較的柔らかい素材が使用されている。しかし、柔らかいためボール競技などには適していない。スタジオの一側（21m）は鏡張りとなっており、身体の動きをフィードバックできる。スタジオからストレッチ・ゾーン側を見渡せる透明な硬化ガラスが設置されており、F-ラボ全体が見渡せるようになっている。

多目的室 は、認知機能評価や各種評価測定、学生個別指導などに利用される予定である。

15m トラック・フィールド には、10cm および 1m ごとに白ラインが引かれており、10m 歩行や最大 1 歩幅・2 歩幅、スプリント競技の評価が可能である。15m トラック・フィールドの横にはフルオープンのスライド式ガラスドアがあり、その外には人工芝が広がっている。気候が良い時には窓をフルオープンにし、開放的な空間で運動を行うことができる。

2024年度(令和6年度)看護学科の取り組み

看護学科長　本多容子

2024年度(令和6年度)は、看護学部設置・大学院に養護教諭専修免許取得コースの設置のための申請を行い、無事に認可された。次年度以降のさらなる飛躍を目指した活発な動きがある1年であった。

1）1年生

今年度は 129 名の新入生を迎えた。新入生歓迎オリエンテーションでは、学科紹介、学習方法、上級生からのアドバイス等の後「玉入れ大会」を開催し学生間の親睦をはかった。

入学式後の学科説明会の様子　保護者も同席してる

新入生歓迎オリエンテーションの様子　左：玉入れ大会　右：表彰式後の集合写真

2）2年生

基礎看護学Ⅱを2024年12月に1クール2週間で実施した。

3）3年生

領域実習を 8 月下旬～3 月上旬で実施した。領域は、成人看護学実習Ⅰ(3 週間)、成人看護学実習Ⅱ(3週間)、老年看護学実習Ⅰ(1週間)、老年看護学実習Ⅱ(3週間)、母性看護学実習(2週間)、小児看護学

実習(2 週間)、精神看護学実習(2 週間)、在宅看護学実習(2 週間)であった。

4）4 年生

◎統合看護学実習

6～7 月に、2 週間の臨地実習を実施した。

◎公衆衛生看護学実習Ⅰ、Ⅱを実施した。

◎教育実習を各実習受け入れ校で順次実施した。

◎2025 年 3 月 13 日に「祝卒業フォローアップ研修」を今年度も開催予定である。

2023 年度の「祝卒業フォローアップ研修」の様子

摂南大学看護学部と合同開催した。両大学の学生・教員での集合写真

5）国家試験対策

2023 年度は全員が合格することが出来なかったため、今年度は国家試験合格率 100%を奪還するため、合格発表当日から支援方法を練り直し、対策に取り組んだ。

・通年：適宜模試を実施し、結果を踏まえて個別面談を実施した。

・前期：「ゼミ別ラウンド学習」を初めて実施した。ゼミ単位で各ゼミの教員が開催する対策講座を順番に受けていった。しかし参加人数の差が大きく、成績が心配な学生ほど欠席が目立つなど課題もあった。次年度は方法を検討し、より効果的な支援方法を検討していく。

・後期：特に学習成果の思わしくない学生を対象とした支援に力を入れ、、少人数（5 名前後）での対面指導を実施した。心配な学生は教員が 1 対 1 または 1 対 2～3 で国家試験前日まで終日個別指導を行った。また必要時保護者にも連絡し、学習支援を要請した。

2 月 14 日に保健師国家試験を 19 名が、同 16 日に看護師国家試験を 115 名が受験した。

1.　研究活動

本年度も多くの教員が科学研究費助成をうけ研究に取り組んでいる。その他、学内外の研究助成金の獲得など研究活動に意欲的に取り組んでいる。さらなる研究活動の活性化を目指し、若手教員の研究支援に力を入れていきたい。

2.　実習協力病院への臨床研究支援

①医療法人恒昭会 藍野病院

・研究方法の講義

・グループ別の研究指導（研究計画立案～まとめ、学会発表まで）

・学会発表

②社会福祉法人恩賜財団 京都済生会病院

・グループ研究指導（研究計画立案～まとめ、学会発表まで）

③医療法人徳洲会 徳洲会吹田病院

・研究指導（研究計画立案～まとめ、学会発表まで）

④社会福祉法人 京都社会事業財団 京都桂病院

・研究方法の講義

・グループ研究指導（研究計画立案～まとめ、学会発表まで）

⑤社会医療法人東和会 第一東和会病院

・個別研究指導（研究計画立案～まとめ、学会発表まで）

学会発表の様子

第 55 回日本看護学会学術集会

（9 月熊本城ホール）

「ICU での特定行為の導入に伴う医師・看護師の認識に関する研究」

吹田徳洲会病院　遠藤周作

藍野大学医療保健学部看護学科

梅田英子　齋藤祥乃

3.　社会貢献活動

今年度も多くの社会貢献活動を実施した。学生も参加した活動の一部を紹介する。

◇藍野まちの保健室／転倒予防のための足指力測定と転倒予防指導コーナースタッフ

日程：5 月 21 日（土）

◇第 2 回市民公開講座／開催運営ボランティア

日程：8 月 19 日

◇ 高槻市立磐手公民館子どもまつり／「おしえてナースせんせい」スタッフ

日程：8 月 24 日

◇日本災害看護学会第 26 回年次大会／ボランティアスタッフ
　日程：8 月 31 日～9 月 1 日　※台風のためオンデマンド開催に変更
◇北摂総合病院防災訓練
　日程：11 月 13 日
◇レビー小体型認知症カフェ・勉強会/ご本人とご家族の交流会
　日程：毎月第 3 土曜日
◇第 9 回スペシャルキッズサポーターの集い／ボランティアスタッフ
　※2025 年 3 月 16 日予定

2024年度の理学療法学科の取り組み

理学療法学科 学科長 寺田　茂

2024年度の理学療法学科の取り組みについて1年間を振り返り報告します。

「学生教育」では、学業不振や進路変更に伴う中途退学者数を減らすため、学年担任・副担任を中心とした学生に対する個別面談を通して、学業、学生生活に対する課題や問題点をいち早く把握するきめ細やかな対応を実践してきました。また、成績が低迷している学生を対象にして、少人数制による支援を実施し基礎知識の底上げと勉学に臨む姿勢の定着に努めてきました。特に4年生については、理学療法学科国家試験対策の根幹をなす学習法であるグループ学習を中心として、学生がグループ内で自らの役割分担や学習目標を定め、自律的に学習するような働きかけを行いました。それと同時に学習の進捗状況が遅れている学生に対しては、対象を選別し、教員による個別指導も実施し、また、対策全般を通して、模試などのデータ管理を行い、適宜学生に対してフィードバックを与えることにより、効果的な学習となるような働きかけも実施してきました。これらの取り組みが実を結び、2025年2月24日に実施される、第60回 理学療法士国家試験に全員が合格することを期待しています。

社会貢献については、藍野大学の認知度向上と帯同する学生の実践教育を目的に、茨木市との連携事業を推進しました。

学術活動については、大学の認知度向上、若手教員および学生に対する研究指導の強化を目的に、個々の教員が各専門分野で積極的な研究活動を行いました。その結果、科研費の採択件数は新規3件、継続7件の計10件となりました。また、学科教員が筆頭著者の掲載論文数は23本（英語論文14本。日本語論文9本）となり、昨年の10本を大幅に上回ることができました。学会発表は、23演題（国際学会4題、国内学会19題）の報告がなされました。さらに、書籍の執筆活動も盛んにおこなわれ、7書籍で発刊にかかわることが出来、例年と比べ活発な活動であったと思います。

その他の取り組みとして、卒業生や臨床実習関連施設のスタッフを対象とした「藍野理学療法学科卒後研修会」を2セッション計5回開催しました。第1セッションは、2024年6月～7月にテーマを『呼吸器理学療法の基礎知識』とし、主に検査データの読み方と酸素療法・人工呼吸器の基礎に関する講演を行い、合計で121名の参加者を集めました。第2セッションは、9月27日に「基礎知識を踏まえた膝関節屈曲可動域制限に対する評価」、11月7日に「Knee　Joint―伸展制限についてー」と題した研修会を開催し、それぞれ50名と43名の参加がありました。また、12月8日に理学療法学科卒業生交流大会とシンポジウムを行い、「卒業生のキャリア：これまでと現在」と題した講演と意見交換に33名のOB・OGの参加がありました。

次年度以降も「学生教育」「社会貢献活動」「学術活動」の三つの領域において、所属教員が一丸となって取り組み理学療法学科のさらなる発展・向上に努めていきたいと考えています。

2024 年度の作業療法学科の取り組み

作業療法学科　学科長　酒井　浩

2024 年度の作業療法学科新入学学生数は 24 名となり，前年度の 45 名から大きく減少した。この現象は藍野大学のみならず, 全国の作業療法士養成大学で見受けられ, 偏差値帯の低い大学ほど影響が大きかった。この要因としては全国規模での高校 3 年生の数が減少したことの影響が大きく，医療職全体で見た場合でも同様であり，職業としての知名度が低い作業療法分野においては，より大きな影響を受けることとなった。旧来より，看護学科，理学療法学科の第二志望者が作業療法学科に入学する割合が一定数あり，看護学科，理学療法学科において志願者数が減少すると，これまで不合格となっていた偏差値帯の学生が第一志望の学科において合格となり，第二志望の作業療法学科には流れてこない。また，このことは他大学との関係においても同様であり，第一志望の大学で志願者数が減少すると，これまで第一志望の大学で不合格となっていた偏差値帯の学生が，併願校としての藍野大学に流れてこなくなる。このような大学内，大学間の学生の流れが変化したことが主要な要因であると考えられる。高校生数の減少は，この先も継続することから，早急に対策を講じる必要に迫られることとなり，藍野大学の作業療法学科でなければできない取り組みを打ち立て，その取り組みを効果的にインフォメーションする必要があると考えられた。

このことを踏まえて，作業療法学科では保育士の国家試験受験を支援する取り組みを開始した。つまり，4 年間で作業療法士の国家資格のみならず，保育士の国家資格を取得できる（国家試験のダブルライセンス取得が可能となる）ように，筆記試験対策としては「保育学入門」を新たに科目設置し，さらに既存科目である「基礎作業学実習」では実技試験を想定した実習内容を組み込んだ。これらの取り組みを高校生に知らせる必要があることから，リーフレットを独自に作成し，それを持参して大規模な高校訪問を実施した。また，オープンキャンパスにおいて 4 ブース形式とし，楽しみながら作業療法を体験し，在学生や教員との交流機会を増やし，盛り上がりのある場を演出した。その結果，2025 年度オープンキャンパスの高校生動員数は過去最高となった。また，入試では他の中堅大学が苦戦するなかで，定員を充足できるかできないかというところまで入学予定者数を伸ばすことができた。今後は，そうして入学した学生が，確実にダブルライセンスを取得し，発達支援の領域で活躍できるようなクオリティの高い学びを提供し，この領域は藍野大学作業療法学科の右に出るものがない，という評判を作り上げていきたい。

国家試験においては，試験対策プログラムを改訂して 2 年目となるが，国家試験受験者のうち過年度生 1 名のみが，残念ながら不合格となり，2 年連続での国家試験合格率 100%はかなわなかった。今年度の結果が待たれるところであるが，このような優れたプログラムが形骸化しないよう，学生と教員が一丸となって全員合格を実現していきたい。

2024 年度の臨床工学科の取り組み

臨床工学科　学科長　五十嵐　朗

2024 年度の臨床工学科の取り組みについて，この 1 年間を振り返り報告いたします。

まず教育については，2025 年度入試より臨床工学科の定員が 40 名から 30 名に減少し，併せて臨床工学専攻科（定員 10 名）の新設に向けた準備を進めました。5 月末に文部科学省へ申請を行い，9 月に認可を取得しました。これに伴い，臨床工学専攻科の学生募集および運営に関して，関東圏の大学専攻科を訪問し，助言を受けながら開設準備を進めました。また，昨年度に引き続いてタスクシフト対応の新カリキュラム適用に向け，実習環境の整備を進め，内視鏡関連機器の購入などを行いました。ただし，内視鏡業務以外の実習環境については，引き続き検討していく必要があります。さらに，新カリキュラム適用外となる在学生に対する告知研修の実施準備を進めました。今年度の臨床実習では，過去最大となる 48 名の学生が臨床実習を行いました。新たに京都市と大阪府の 3 施設を実習病院として追加し，協力医療機関および臨床系教員の尽力により，9 月末までにすべての学生の臨床実習を完了しました。また，臨床工学専攻科の臨床実習先として，近畿 2 府 3 県にそれぞれ 1 ヶ所ずつの実習施設を確保しました。さらに，2023 年度入学生から導入している早期臨床体験実習（Early exposure）において，吹田徳州会病院に加えて，新たに友紘会総合病院を見学先として追加しました。これにより，学生たちは臨床工学技士の重要性や役割をより具体的に認識する機会を得ることができました。また，学習支援として，主に 1 年生を対象に数学や物理のような理系科目だけでなく，2 年次以降の専門基礎科目および専門科目を履修する上で基礎となる医学系の基礎科目についても補講を実施しました。さらに，後期ガイダンス時には 1 年生から 3 年生を対象にアチーブメントテストを実施し，学習状況の可視化を行うことで，後期の授業内容へ適切に反映させました。また，後期に保護者懇談会を学年ごとに開催し，教育カリキュラム説明（オンデマンド）と個別相談会（オンラインおよび対面）を行いました。

学生募集については，オープンキャンパスにおける模擬手術室での内視鏡などの学科体験や SNS 媒体による広報を積極的に進め，臨床工学技士養成校としての大学がない空白地域への高校訪問および臨床実習病院の確保も継続して行いました。その結果，オープンキャンパスへの参加者は前年度を上回る実績を記録しました。特に，SNS のフォロワー数や動画再生回数が大幅に伸び，広報活動の成果が現れました。しかしながら，オープンキャンパス参加者の増加が出願者の増加には直結せず，入学定員確保の課題は依然として残っています。そのため，受験生確保のために SNS を含めた広報戦略の見直しや，オープンキャンパスでのアピール方法の改善が求められます。具体的には，現状の模擬手術室と臨床系実習室を統合した「クリニカル・スキル・ラボ」を 2025 年度に向けて整備する計画を進めています。これにより，手術室から集中治療室，病棟までの治療プロセスにおける臨床工学技士の役割を具体的にイメージできる環境を提供することを目指しています。また，臨床系の学内実習と連携し，ニプロ株式会社 iMEP での手術実践実習を組み合わせることで，臨床現場に即した実践的な教育を強化し，本学科の特色として打ち出していきたいと考えています。さらに，大学病院や公立病院への就職実績を前面に押し出し，入学者確保に向けた広報活動を強化していく予定です。

2024 年度は，定員充足に向けたさまざまな取り組みを実施しましたが，依然として厳しい状況が続いています。2025 年度は，この局面を打開すべく，所属教員一丸となり，引き続き努力を重ねていきたいと考えています。

2024 年度　看護学研究科の取り組み

看護学研究科長　西上あゆみ

大学院は「実践看護分野」として「成育看護学」「高齢者看護学」「精神看護学」「災害看護学」を、「看護マネジメント分野」として「地域保健看護学」「看護管理学」「感染看護学」と 2 つの柱と 7 領域から成り立っている。2024 年度は 4 名の入学生を迎えた。今年度はじめて学部からストレートで進学する学生を 1 名迎えた。入学定員 6 名は満たすことができなかったが、院生総数 17 名となった。

入学生の募集について、学部のオープンキャンパスと同日に大学院の相談ブースも設けているが、今年度はあまり需要はなかった。入試広報部にはしばしば、電話での問い合わせがあり、希望者の専攻領域の教員と協力して面接は複数実施した。学生の思い描いている大学院と現実には少しギャップがあるため、丁寧な面接を心がけた。2024 年度も 12 月 7 日開催の大阪府看護学会(大阪府看護協会主催)で学会ホームページへのバナー広告、会場では大学院ブースを出展した。次年度より関西圏の看護協会の学会に広げるなど、広報活動を活発化する必要がある。前年に引き続き 7 月看護学科開催の実習施設との意見交換会や、研究科教員が近隣の看護協会等で特別講義を引き受ける時に大学院の紹介を行った。今年度より病院説明会が 12 月に開催されることになり、この場での募集も実施した。本学を修了した学生は認定看護管理者の受験に挑戦していること、修了することによって職場での研究指導に役立っていることを聞き、これらのメリットを紹介するようにした。8 月 31 日開催の日本災害看護学会第 26 回年次大会においても広報予定であったが、台風の迷走で現地での対面開催はかなわず、オンデマンド内の企業広告内で院生の募集を行った。2025 年度の入学生の獲得に関しては、健康科学研究科設立に伴い、リーフレットが 1 本化したことで、3 期の入学審査を固定化した。

教育実践について、学生の希望に応じて WEB での遠隔授業と対面授業を組み合わせた授業を展開している。今年度も学生の要望を取り入れ、週末や夜間帯の授業が中心となった。書籍に関しても学生の希望を取り入れ、5 万円程度の予算を組み、図書館に行かなくても研究室内で使用できる図書の充実を継続した。

2024 年 4 月 19 日、例年どおり、修士論文を提出する予定学生の研究計画発表会が行われ、2 名が発表した。その後、6 月～7 月の本学の研究倫理部会において各自が研究計画の審査を受け、研究を進めた。加えて、秋季 11 月の研究計画発表会では、昨年同様 6 名の学生が研究計画を発表した。もともと 3 年コースの学生用として開催を始めたが、2 年コースの学生も秋季に発表をさせたいという要望が指導教員からあり、発表が多くなった。これにより 4 月の発表会は今後ますます縮小化することが予想される。現在、4 月は日中に発表会が行えているが、学部の臨地実習の都合から 11 月は 18 時から 20 時の発表となっている。学生の希望を確認しながら、秋季の発表会の日時の検討が今後必要になるかもしれない。

FD 活動については、健康科学専攻と合同開催とし、隔年交代で企画することとした。今年度は看護学研究科主催とし、8 月 23 日に実施した。2023 年に着任いただいた山田和子先生から「修士課程における論文作成について～これまでの経験をとおして～」として多くの大学院生をご担当されてこられたご経験をもとにご講義をいただいた。その後、健康科学研究科と看護学研究科の修士論文の進め方について情報交換を実施した。

新たな取り組みとして、教職課程（養護教諭）の専修免許、助産課程の設置に関する準備を進めた。助産課程については現在も取り組み中であるが、教職課程（養護教諭）の専修免許については、無事、令和 7 年度からの課程許可をいただくことができた。

記念すべき出来事として、11 月 30 日に開催された記念式典では看護学研究科も 10 周年をお祝いしていただいたこと、修了生からお花を送っていただいたことに感謝申し上げたい。

2024 年 2 月 14 日修士論文発表会は学外からの参加者に向けても広く公開をした。大学院生の研究活動においては 2 名の学生が発表を行った。1 名の学生は、研究計画書作成時に行った文献レビューを日本災害看護学会第 26 回年次大会で「近年の災害時の血液透析に関する調査研究の動向について」を発表し、もう 1 名は The 97th Annual Meeting of Japanese Society for Bacteriology にて“Analysis of the amikacin resistance factor of carbapenem-resistant *E. coli* AUH-256”を共同発表した。

教育・学習環境については、今年度も学生より希望を聞いて、SPSS の導入、授業用 PC の設置等、学習環境整備に努めた。また、昨年 4 月に発足させた修了生や関係者を含めた研究会（通称 ANA 会）は今年度も継続して行った。修了生が研究発表や計画発表の予行に利用しているが、在学生にとどまらず、修了生にも声をかけ、本会を利用してもらっている。在学生も修了生から研究の進め方を教わったり、情報交換の場となっている。本会ではメーリングリストを用いて ANA 会以外の時でも研究に関する良い情報があれば、メンバー間で情報交換、連絡を取り合うようにしている。

博士後期課程開講に関して計画はあげているものの、今年度も現在開講している分野の教員の補充に難渋することもあり、しっかりと取り組みができているといえない。次年度より開設される健康科学研究科との連携の下、今後も設置に向けて取り組んでいかれるよう申し送っていきたい。

2024 年 ANA 会（2023 年 4 月発足）

現在参加者：13 名（2024 年 12 月現在）

開催月日と内容

第 1 回	4 月 21 日 9：00 - 12：00	①自己紹介、今年度の計画 ②修了生による学会発表の予行 ③「山﨑塾」参加報告
第 2 回	5 月 19 日 9：00 - 12：00	①文献整理ソフト Q レフ勉強会 ②修了生による学会発表の予行
第 3 回	6 月 16 日 9：00-12：00	①KH コーダ勉強会 ②学会発表の予行 ③防災防犯総合展参加報告
第 4 回	7 月 14 日 9：00 - 12：00	ナラティブの講義（平山恵美子先生）
第 5 回	8 月 10 日 9：00 - 12：00	①学会発表の予行 ②参加した学会の報告
第 6 回	10 月 6 日 9：00 - 12：00	①修了生による学会発表の予行 ②在学生による文献レビューの発表 ③学会参加者、スタディツア参加者の報告
第 7 回	11 月 10 日 9 ：00 - 12：00	①在学生の秋季研究計画発表会の予行 ②HUG ゲーム
第 8 回	12 月 15 日 9：00 - 12：00	学会参加報告
第 9 回	1 月 19 日 9：00－12：00	京都防災センター見学
第 10 回	2 月 1 日 9：00－12：00	①修士論文発表会予行 ② 研究に関する情報交換
第 11 回	3 月	休会（予定）

2024年度の健康科学研究科の取り組み

健康科学研究科長　酒井 浩

2024年度，念願であった健康科学研究科が開設となった。「認知健康科学領域」と「身体健康科学領域」の2領域から構成され，10名の特別研究指導教員が1学年6名の定員に対して修士課程の指導を行う。その初年度となる2024年度の入学者数は6名（認知健康科学領域3名，身体健康科学領域3名）であり，２つの専門領域でバランスの良い配置となった。本研究科は，国の重点施策である健康増進を総合的かつ多角的に捉える知識・技能・態度を身につけ、健康づくり・生涯スポーツの実践と継続を推進していける人材を養成することが健康科学研究科設置の主な目的となり，そのために必要な基本的、応用的知識を身に着け，地域の場において実践していける基盤を学ぶことができるよう設計されている。

本研究科の特徴を以下に示す。

⑴2領域（認知健康科学領域・身体健康科学領域）の両方を学ぶことができること。

身体機能面だけではなく、認知機能面や社会面（社会参加など）を含めた視点で健康増進を考えることができる人材を養成するために，本研究科のカリキュラムは，認知健康科学特論と身体健康科学特論の両方を履修可能としている。これにより，健康増進を総合的かつ多角的に捉える知識・技能・態度を身につけ、健康づくり・生涯スポーツの実践と継続に必要な基本的、応用的知識を身に着けることができる。

⑵教育関連科目を4単位設置している

現在、理学療法士・作業療法士の専任教員になるためには、大学あるいは大学院にて教育学系の科目を4 単位以上履修する必要がある。本研究科では，将来教育職に就くことを視野に教育学系の科目を4単位（教育方法学特論・臨床教育学特論）設けており，教員としてのキャリアを支援する。

⑶働きながら通うことができる

夜間開講やwebシステムを利用し，臨床経験を途絶えさせることなく学びを深めることができる環境を整えている。

⑷長期履修制度がある

基本となる2年の就業年限に加えて、就労や研究の進捗状況に応じ、3年の就業年限を選択する（長期履修制度を利用する）ことが可能である

その他，藍野大学出身者は入学金を免除，法人関連養成校出身者は入学金の半額を免除される制度や，充実した在書数を誇る中央図書館や卓越した研究環境を有する中央研究施設を利用することも可能であり，地域の健康増進においてリーダー的役割を担う優秀な人材を育成するにあたって，十分な環境が構築されている。

我々，指導教員も気を引き締めて，地域で暮らす方々の健康を支える優秀な人材を一人でも多く育成し，輩出していきたい。

藍野大学　中央研究施設

藍野大学中央研究施設　施設長　栗原秀剛

人的構成

構成員	氏名
施設長	栗原秀剛（副学長、理学療法学科　特任教授）
学内研究員	山田義博（理学療法学科　教授） 田浦晶子（臨床工学科　教授） 稲盛修二（臨床工学科　教授） 山崎康祥（臨床工学科　准教授） 林拓世（臨床工学科　講師） 山本祐輔（臨床工学科　助教） 宮本陳敏（作業療法学科　講師） 塚越千尋（作業療法学科　講師） 林部美紀（作業療法学科　特任講師） 横山雛子（看護学科　助手） 三木志帆（実験補助技術員） 藍野大学の学生：臨床工学科 14 名
客員研究員	井出千束（中央研究施設客員研究員） 山田久夫（中央研究施設客員研究員） 中野法彦（びわこリハビリテーション専門職大学　教授） 兼清健志（びわこリハビリテーション専門職大学　教授） 長井雅代（中央研究施設客員研究員） 玉地雅浩（中央研究施設客員研究員）

研究活動

中央研究施設は、藍野大学を中心に、びわこリハビリテーション専門職大学を含む学校法人藍野大学全体の研究活動を推進・発展させる拠点として活動している。藍野大学中央研究施設は医学部を除いた医療系大学では珍しく電子顕微鏡など大型の機器が充実しているのが特徴である。開設から経年劣化が進む設備について継続的な使用を可能とするためのインフラ整備を行っている。本年度は開設当時から使用していたツアイスの蛍光顕微鏡が故障のため使用不能となり、同等の性能を有する蛍光顕微鏡を購入した。また、大学全体の研究活動の拠点として明確に位置づけるため、学内教員、客員研究員との共同研究はもとより、学部学生の卒業研究指導等を積極的に行った。

（1）共同研究施設としての体制の整備と機能の推進

中央研究施設は、大学で唯一の実験研究施設として本学並びに関連施設の教員・医師および学部学生に実験の場と研究機器を提供し、優れた研究成果を生み出すことを目的として活動している。また、共

同研究を推進しており、学会や国際雑誌も含めた論文発表、科研費も含めた競争的資金の獲得、産学連携も含めた外部資金の導入、特許取得などの成果をあげている。本年は、猛暑による影響か、動物施設において、動物飼料を保管してある場所で大量のチャタテムシが発生したため、駆除を行った。

（2）研究施設独自の研究の推進

研究に関する今後の展望としては、臨床に直結したトランスレーショナルリサーチを推進し、国内のみならずグローバルに通用する最先端の研究を実践している。

主な研究内容

（1）オルガノイドを用いた内耳再生に関する研究
（2）Lmo2 転写因子複合体による血管新生制御
（3）腎臓に発現する新規分子の解析
（4）脊髄損傷モデルラット、マウスを用いた神経再生治療法の確立

「2023 年度　中央研究施設シンポジウム」開催

日時：2024 年 3 月 4 日
場所：MLC　F201 アクティブコモンズ

2022 年度より設けられた「優秀研究賞」「研究奨励費」の採択者、および科研費新規獲得者を中心に 9 名が講演を行った。学長、学部長も出席され、ご挨拶をいただいた。午前、午後の長時間に渡り行われたが、総勢 26 名の来場者があり、質疑応答が行われた。

高畑　脩平	科研費	ペンタブレットを用いた書字の質的評価ツールの開発研究
高田　昌寛	科研費新規	二重エネルギーX 線検査で測定した下肢除脂肪量と体幹除脂肪量の比は、日本人地域在住高齢男性における 5 年後の転倒を予測する：藤原京スタディ骨粗鬆症前向きコホート研究
森田 恵美子	科研費	腸内環境のエース「短鎖脂肪酸」をいかに増やすか ― 運動処方の開発 ―
西田　千夏	優秀研究賞 科研費新規	発達障害特性が感じられる看護師への合理的配慮を含めた現任教育の現状と課題 ―看護管理者の認識による実態調査から―
青山　宏樹	優秀研究賞	骨盤部への歩行支援制御の定量化　-歩行支援付きロボット歩行車の実装に向けて-
河野　由理	科研費新規	アルコール関連問題をもつ対象者への訪問看護・介護職によるケアガイドラインの開発

畑中　由佳	優秀研究賞	ハードシェル静脈リザーバーにおける薬液拡散の性能評価 –時定数および薬液濃度比による評価–
塚越　千尋	科研費	脊髄損傷モデルラットにおけるリハビリテーション訓練の効果－強制歩行と意欲にもとづく自発運動が後肢行動回復と軸索再編成にどのような影響を及ぼすか－
田浦　晶子	科研費	内耳オルガノイドを用いた前庭再生医療

研究成果　（抜粋）

論文

・Saito　K, Yokawa S, **Kurihara H** et al. FilGAP controls cell-extracellular matrix adhesion and process formation of kidney podocytes. FASEB J　2024; 38(5): e23504.

・Nagase M, Ando H, Beppu Y, **Kurihara H** et al. Glomerular Endothelial Cell Receptor ADGRF5 and the Integrity of the Glomerular Filtration Barrier. J Am Soc Nephrol 2024; 35(10)：1366－1380. selected for "Best of ASN Journals in 2024"

・宮本陳敏、池田望：中国における作業療法士養成教育の現況について.　大阪作業療法ジャーナル. Vol.38(1)78-86　2024

・山田久夫：リハビリテーション学，リハビリテーション職とその養成のあるべき姿.　びわこ健康科学　2: 39-46, 2024

学会発表等

・Tsukagoshi C. Kanekiyo K. Nakano N. Hayashibe M. Ide C.　Effects of increasing the duration and frequency of treadmill training on behavioral recovery and axonal reorganization in spinal cord injury model rats. The 47nd Annual Meeting of the Japan Neuroscience Society, Fukuoka, 2024.7.24-7.27, 1P-363

・Tsukagoshi C. Kanekiyo K. Nakano N. Hayashibe M. Effects of rehabilitative training on locomotor recovery and spinal axonal reorganization in a rat thoracic cord injury model - comparison between forced running and spontaneous locomotor activity -　8th Asia-Pacific Occupational Therapy Symposium (APOTC 2024) , Sapporo, Japan, 2024.11.6-11.9. P1-O-18.

・Miyamoto C.　Rehabilitation　Strategies for Intellectual Disabilities　China-Japan Children Rehabilitation Acodenmic Exchange Conference, Chengdu China，2024.1.8

・Miyamoto C.　Current Status and Challenges of Employment Support for Students with Developmental Disabilities in Japanese Higher Education　The 5th interdisciplinary Forum on

Autism Spectrum. in Chengdu China,2024.4.1-2
・Miyamoto C. Kanekiyo K. Nakano N.　Biochemical Analysis Approach for the Development of a Novel Electrical Stimulation Rehabilitation Method for Spinal Cord Injuries The 8th Asia Pacific Occupational Therapy Congress 2024（APOTC2024）in Sapporo,Japan.2024.11.6-9
・Horino S. Shimmura K. Tamachi M. Wesugi S. Support for adjustment of trunk and pelvic angles during running using apparent motion of tactile stimuli　ISEA 2024: The Engineering of Sport 15, Conference Proceedings,(2024.7)

・塚越千尋　脊髄損傷モデルラットにおけるリハビリテーション訓練の効果－強制歩行と意欲にもとづく自発運動が後肢行動回復と軸索再編成にどのような影響を及ぼすか－　2023 年度中央研究施設シンポジウム，MLC2F アクティブコモンズ，2024.3.4
・栗原秀剛　　ポドサイトスリット膜の分子基盤　2024 年度生理研研究会“上皮イオン環境とその変化が支える細胞機能”　国立生理学研究所、岡崎　2024.8.8-9
・山田久夫　折り紙における正確さと手指の関節の動き（角速度）の関係について
日本産業技術教育学会 第 67 回全国大会　鳴門教育大学　2024.8.17-18
・田浦晶子、吉川弥生、扇田秀章、大森孝一 、伊藤壽一　前庭血管ペリサイトと血管透過性についての検討　第 83 回日本めまい平衡医学会、名古屋、　2024.11.14.
・吉川弥生、田浦晶子、木下淳、藤本千里　閉経後骨粗鬆症モデルマウスの作成とスタチン局所投与による安全性の検討　第 83 回日本めまい平衡医学会、名古屋、　2024.11.14.
・田浦晶子(座長)　【一般演題　口演　O01-6)】第一群　「基礎」第 83 回日本めまい平衡医学会、名古屋、　2024.11.14.
・内田敦士、東 祐輝、矢部海吏、玉地雅浩、上杉 繁　着地動作時における前十字靭帯の負荷軽減を目指した下肢への張力付与・制動装具の開発　日本機械学会スポーツ工学・ヒューマンダイナミクス部門講演会 2024　慶應義塾大学　神奈川　2024.11.17
・玉地雅浩　第 4 セッション　座長　2023 年度兵庫県理学療法士協会 神戸（西）支部 新人発表会、神戸リハビリテーション衛生専門学校、2024.1.28
・玉地雅浩　口述 5 研究助成演題　座長　第 35 回兵庫県理学療法学術大会、アクリエひめじ、2024.9.15

著書
・栗原秀剛　泌尿器系　坂井建雄、川上速人　監訳，ジュンケイラ組織学第 6 版，東京；丸善；2024，p. 423-443
・田浦晶子、扇田秀章　ENTONI　No.300［8 月号］めまい―診断と鑑別のポイント―前庭神経炎　総編集：堤　剛/東京/全日本病院出版会/2024 年/17-27 頁
・田浦晶子、青木光広　JOHNS　耳鼻咽喉科頭頸部外科のサブスペシャリティ　めまい相談医制度東京/東京医学社/2024 年/1227-1229 頁

中央研究施設管理運営委員会

構成（令和 6 年度）
栗原秀剛、中田裕二、山田義博、宮崎浩、田浦晶子、宮本陳敏

令和 6 年度　委員会開催日

開催日	開催日	審議事項
第 1 回中央研究施設管理運営委員会	2024 年 4 月 17 日	【報告事項】 ・2024 年度予算について ・2024 年度中央研究施設利用者について
第 2 回中央研究施設管理運営委員会	2024 年 11 月 19 日 ～11 月 25 日	【審議事項】 ・2025 年度（令和 7 年）中央研究施設の予算案について

動物実験部会

構成（令和 6 年度）
栗原秀剛、中田裕二、山田義博、田浦晶子、塚越千尋、兼清健志

令和 6 年度部会開催日

	開催日	審議事項
第 1 回動物実験部会	2024 年　5月 15 日	【審議事項】 ・2023 年度動物実験結果報告書および自己点検票について（14 件） 【報告事項】 ・2024 年度中央研究施設予算についての報告

2024 年度　承認された研究課題　（全 13 件）

承認日	研究課題名	実験責任者	備考
2024 年 4 月 2 日	脊髄損傷モデルラット、マウスを用いた神経再生治療法の開発	兼清健志	更新
2024 年 4 月 2 日	体外循環・補助循環における生理的拍動流発生装置の開発および拍動効果の検証	稲盛修二	更新
2024 年 4 月 2 日	腎臓に発現する新規分子の解析	栗原秀剛	更新

2024 年 4 月 2 日	脊髄損傷における新規電気刺激リハビリ方法開発へ向けた生化学的解析によるアプローチ	宮本陳敏	更新
2024 年 4 月 2 日	終糸上衣細胞の培養方法の確立と移植効果の検討	井出 千束	更新
2024 年 4 月 2 日	Lmo2 転写因子複合体による頭頸部の血管新生制御に関する研究	田浦晶子	新規
2024 年 4 月 2 日	内耳再生に関する研究	田浦晶子	新規
2024 年 4 月 2 日	スタチンによる耳石硬化療法についての検討	田浦晶子	新規
2024 年 4 月 2 日	骨髄間質細胞をはじめとする体性幹細胞由来の神経突起伸長因子の解析	中野法彦	更新
2024 年 4 月 2 日	Lmo2 転写因子複合体による血管新生制御	山田義博	更新
2024 年 4 月 2 日	ラット体外循環での長期生存モデルの確立と体外循環での炎症反応抑制に向けた検証	山崎康祥	更新
2024 年 4 月 2 日	脊髄損傷ラットに対して集団での自発歩行の運動機能と形態学的分子生物学的効果の検証	林部美紀	更新
2024 年 4 月 2 日	脊髄損傷モデルラットを用いた自発的リハビリテーションの有効性の検討	塚越千尋	更新

動物使用数　（2023 年度実験報告書による）

年度	ラット	マウス	合計
2023 年	192 匹	102 匹	294 匹

動物実験講習会の開催

第 34 回　動物実験講習会
開講日：2024 年 2 月 16 日
参加者：18 名　（教員 16 名　学生 2 名）

第 35 回　動物実験講習会
開催日：2024 年 12 月 2 日
参加者：8 名　（学生 8 名）

実験動物慰霊祭の挙行

昨年に引き続いて実験動物慰霊祭を挙行した。

挙行日：2024 年 11 月 6 日

出席者：佐々木惠雲学長、栗原秀剛施設長、山田義博教授、稲盛修二教授、井出千束客員研究員、山田久夫客員研究員、中野法彦教授、兼清健志教授、山崎康祥准教授、林拓世講師、山本祐輔講師、横山雛子助手、三木志帆実験補助員、臨床工学科 4 回生 6 名

一、　開式の辞
一、　学長挨拶　藍野大学　学長　佐々木惠雲
一、　学長による読経
一、　黙祷
一、　慰霊のことば　藍野大学中央研究施設長　栗原秀剛
一、　献花
一、　閉会の辞

2024年度のキャリア開発・研究センターの取り組み

キャリア開発・研究センター長　中野玲子

当センターは、多様な学生の就職支援を行うとともに、卒業後の生涯を通じた持続的な就業力向上を目指し、社会的・職業的自立に向けた指導などを通して、その充実及び高度化に資することを目的に創設された藍野大学内に位置する組織である。

現在は、看護職のキャリアアップ支援事業として「認定看護管理者教育課程」ファーストレベル及びセカンドレベル研修を開講し、看護管理者として保健医療福祉分野における質の高い看護サービスの提供を目指し、基本的責務を遂行するために必要な知識や技術の習得を支援している。また、それらの研修修了生のフォローアップ研修や看護職のキャリアアップ支援研修などを実施してきた。そして新たに、2024年度、認定理学療法士臨床認定カリキュラム（運動器）を開講し、理学療法士の専門的かつ高度な実践力習得の支援に取り組んだ。

1. 医療従事者のキャリアアップ支援

研修名（時間）	日程	参加状況	講師・研修内容など
2023年度ファーストレベルフォローアップ研修	6/8（土）	修了者53名 参加者40名	新潟薬科大学看護学部教授　平山惠美子先生「看護倫理事例」
東和会グループ研修	6/23（金）	第一東和会病院職員61名	キャリアセンター専任教員　小砂見惠子先生 「管理運営」
セミナー	6/29（土）	①　午前117名 ②　午後85名	①　京都大学大学院医学研究科教授　任和子先生 「どう書く？小論文・課題レポート」 ②　美杉会グループ理事・看護部特任総看護部長兼教育部長　高須久美子先生 「フレームワークをどう使う？」
セカンドレベル研修（180h）	7/4～9/21（木金土）	募集定員35名 応募者30名 受講者29名	「ヘルスケアシステム論Ⅱ」15h、「組織管理論Ⅱ」30h、「人材管理Ⅱ」45h、「資源管理Ⅱ」15h、「質管理Ⅱ」30h、「統合演習Ⅱ」45h
認定理学療法士臨床認定カリキュラム	10/5（土） 10/6（日） 10/26（土） 10/27（日）	募集定員40名 受講者11名	必須科目15コマ・選択科目5コマ ①　「姿勢・歩行の評価・分析と理学療法」藍野大学　田中貴広先生 ②　「肩関節疾患の機能解剖と理学療法」藍野大学　熊田仁先生 ③　「膝関節疾患の機能解剖と理学療法」大阪河﨑リハビリテーション大学　久保峰鳴先生 ④　「股関節疾患の機能解剖と理学療

			法」京都大学　建内宏重先生 ⑤　「脊柱疾患の機能解剖と理学療法」 堺若葉会病院　増井健二先生
2023年度セカンドレベルフォローアップ研修	10/12（土）	修了者33名 参加者20名	キャリアセンター専任教員　小砂見惠子先生 「看護管理実践報告会」
卒業生対象セミナー	10/19（土）	あいの祭にて	理学療法学科　近森聡先生 「ストレスマネジメント」
ファーストレベル研修（105h）	10/31～ 12/21 （木金土）	募集定員50名 応募者68名 受講者55名	「ヘルスケアシステム論Ⅰ」15h、「組織管理論Ⅰ」15h、「人材管理Ⅰ」30h、「資源管理Ⅰ」15h、「質管理Ⅰ」15h、「統合演習Ⅰ」15h
セミナー	11/2	参加者86名	美杉会グループ理事・看護部特任総看護部長兼教育部長　高須久美子先生 「看護師のためのSWOT分析」

2. キャリアセンターの広報活動

1）セカンドレベル研修受講生募集

セカンドレベル研修定員35名確保のため、一昨年近畿圏内23施設（大阪府15施設、滋賀県4施設、京都府3施設、兵庫県1施設）訪問し、30名の応募があった。次年度の受講生確保のため、同様に施設訪問を計画している。また、ファーストレベル研修修了者381名及び、近畿圏内の病院・訪問看護施設1,187施設へリーフレットを送付した。

2）認定理学療法士臨床認定カリキュラム受講生募集

近畿圏の病院697施設及び理学療法学科卒業生890名に広報資料を送付した。

3）大学院への進学者確保のためのファーストおよびセカンドレベル研修受講生への説明

4）藍野大学校友会との連携強化によるスキルアップ研修などの広報

＜認定看護管理者制度＞および＜認定理学療法士の臨床認定カリキュラム＞の概要

認定看護管理者制度とは

我が国における看護師の資格認定制度は、1987年厚生省の「看護制度検討会報告書（21世紀に向けての看護制度のあり方）」において、管理職の育成について、「複雑化する病棟管理を円滑に行っていくため、教育、訓練を受けたマネジメントのできる能力をもつ中間管理職を早急に育成する必要がある」と提言されたことを契機に、日本看護協会により認定看護管理者制度が開設された。

この制度は、多様なヘルスケアニーズを持つ個人、家族及び地域住民に対して、質の高い組織的看護サービスを提供することを目指し、一定の基準に基づいた看護管理者を育成する体制を整え、看護管理者の資質と看護の水準の維持及び向上に寄与することにより、保健医療福祉に貢献することを目的とする。認定看護管理者認定審査受験資格要件を満たし、認定審査に合格し登録手続きをした者を認定看護管理者として認定する。その受験資格要件に関する研修として、ファーストレベル研修、セカンドレベル研修およびサードレベル研修が、全国都道府県看護協会や教育機関で実施されている。創設当初の教育課程は改正され、現在は「ヘルスケアシステム論」「組織管理論」「人材管理」「資源管

理」「質管理」「統合演習」の 6 教科目で構成されている。

認定理学療法士の認定カリキュラムとは

認定理学療法士制度とは、2022 年に、日本理学療法士協会が創設した学習制度の一つであり、登録理学療法士の更新を基盤に、様々な領域に従事する会員が持続可能な生涯学習制度とし、働き方に応じた多様性と深化の動機づけとなるキャリア開発プログラムである。

認定理学療法士取得要件は、次の 4 つの条件である。

1. 登録理学療法士であること
   1）前期研修　座学：22 コマ（33 時間）、実地研修：32 コマ（48 時間）
   2）後期研修　座学：51 コマ（76.5 時間）、実地経験：3 年（36 か月）
2. 協会主催の指定研修カリキュラムの受講
   e ラーニングにて 12 コマ（1 コマ 90 分）
3. 臨床認定カリキュラムの受講（分野別）
   必須科目 15 コマ・選択科目 5 コマ
4. 日本理学療法学術研修大会への参加

当センターでは、看護職のキャリアアップ支援事業として、認定看護管理者教育課程のファーストレベル研修を 2014 年度から、またセカンドレベル研修を 2017 年度から実施しており、大阪府の他、広く近畿圏内の施設の看護職が受講している。今後も、両研修の受講生確保に取り組んでいく。

そして、2024 年度、上記認定理学療法士取得要件である「臨床認定カリキュラム（運動器）」の講座を開講した。募集定員 40 名であったが、受講者 11 名と少なかった。今年度の実績を振り返り、次年度開催に向け受講生確保に取り組んでいる。

今後も、本法人のネットワークを生かした更なる教育の質向上と、新たな事業展開を通して地域社会に貢献したいと考えている。

藍野大学・藍野大学短期大学部事務センターから藍野大学事務センターへ

大阪茨木キャンパス事務局
事務局長　小林　正明

2024 年度、藍野大学の取り組みとして、医療保健学部看護学科を看護学部看護学科に改組、医療保健学部の新たな学科として、地域の健康増進・ウェルビーイングに貢献する健康科学科の設置、臨床工学専攻科（1 年制）の設置により、学長の提唱する本学、地域医療、地域生活（住民の生活支援）の 3 者で構成される高等教育の次世代の在り方である「藍野モデル」のフォーメーションが 2025 年度より、2 学部 5 学科 1 専攻科 2 研究科としてスタートする。

また、藍野大学短期大学部の取り組みとして、学校法人藍野大学大阪阿倍野キャンパス総合整備計画第二期の竣工により、藍野大学短期大学部第一看護学科・第二看護学科（専攻科）を統合し 2025 年度より看護学科 2 年課程・3 年課程・専攻科（保健師養成課程）に改組し大阪阿倍野キャンパスに集約させる。隣接する明浄学院高等学校との高短大接続により、高等学校衛生看護科と 2 年課程の 5 年一貫教育、普通科看護メディカルコースと 3 年課程との 6 年一貫教育の教育体制を構築し、行政やコミュニティー・医療従事者との連携による地域の保健医療福祉サービスに係る課題にコミットした活動を推進し、看護師養成から卒業後のキャリアアップ、キャリアサポート等の体制構築により、AINO Nurse Island 構想から AINO Nurse Island 計画へと具体の取組を示し推進していく。

なお、2025 年度より大阪茨木キャンパスの事務組織は新たな体制となり、藍野大学・藍野大学短期大学部事務センターから藍野大学事務センターとなる。ここ 2 年間で、新たに入職した事務職員も業務に慣れロジ業務については安定してきている。新たなスタートに向けて、改めて前任者の垣尾局長が取り組まれた「業務の標準化」「業務の省力化」等を振り返り、引き続き業務改革の手を緩めることなく推進していきたい。

事務職員の業務の高度化、多様化により教育・研究や組織の管理・運営において、事務職員の果たすべき役割の重要性が高まり、今後の事務職員には専門的知識を有した改革を推進することのできるゼネラリストの能力が求められる。ゼネラリストの人材養成を目指した法人、設置校の横断的な取り組みとして、女性職員の働き方プロジェクトを実施した。同一法人内においても法人、各設置校のそれぞれの業務内容や職場環境の違いなど、普段の業務からは把握しがたい他部署の状況を理解し議論を重ねたことにより広い視野を持ち、多様な考え方を集約し、大きな成果物として報告書を取りまとめることができた。今後、報告書の内容を就業規則などの規程にどのように反映させることができるか検討していく。事務職員に求められるゼネラリストの能力を獲得するためにも、法人、設置校横断的なプロジェクトや人事異動において幅広い視野を持ち、求められる能力を得ていく必要があると考える。急速な少子化が進む中、変化に適応し政策立案ができる事務職員の育成と事務組織体制などの人事政策を確立させていきたい。

急速な少子化が進行する中で、藍野大学の学生募集にも影響が出てきており、令和 7 年 1 月 27 日時点の状況であるが、学部入学定員 305 人に対し入学定員充足率の予測が MAX　102.6%、MIN　97.4% となっており、入学定員充足率　100%を維持すること及び年度内の退学者を勘案すると来年度内の収容定員充足率　100%を維持することも厳しくなってきている。学生生徒等納付金収入が財源の大部分を占めることから、中期財務計画について見直が必須となってきている。併せて、内部監査室より、2030 年から 2035 年までの間、急激に 18 歳人口が減少することが予測されることから、本法人としてどのように対応していくか、AINO　VISION の更新を急ぐべきである旨の報告がなされた。その内部監査

結果調書が理事会にも報告されAINO　VISION　2035への更新が進められられている。

また、学生募集においては、明浄学院高等学校との高大連携による高等学校の探求の時間を活用した各学科の教員による授業等を実施している。高等学校の生徒には好評であると高等学校の教員より聞き及ぶが、高大接続の実績には大きく繋がっていないのが実情である。過去5年間の明浄学院高等学校学校からの入学者は5名であり、今年度、他法人への医療系進学者の内、25名にその進学理由を取りまとめた結果、主な理由として、通学に係る地理的な問題、専門学校への進学が散見される。明浄学院高等学校の医療系進学実績は、大学、短大、専門学校を含めると今年度52名（予定）、前年度19名、前々年度15名であり、高等学校普通科看護メディカルコースからの進学実績が出始めている。今年度の募集状況は以下のとおり、昨年に引き続き安定しており入学定員320人は充分に捉えている。

普通科	定員　200人	専願	163人	・	併願　171人
（内看護メディカル）		専願	45人	・	併願　37人
衛生看護科	定員　120人	専願	146人	・	併願　43人
高等学校合計		専願	309人	・	併願　214人

高大連携は始まったばかりであり今後、高等学校の生徒募集から、明浄学院高等学校、藍野大学の高大連携による一貫教育、ポートフォリオを活用した一貫教育による成長の可視化など、中学生・保護者・中学校の教員にわかりやすい魅力・特色の取り組みを検討する必要がある。高等学校の募集において、「学校法人藍野大学　明浄学院高等学校」として広報しているため、大阪府下における大学のブランディング広報の効果は大きく期待できる。

最後に2025年度は、改正私立学校法が施行され、役員体制が大きく変わること、学校法人会計基準の変更、内部統制システムの整備が必要となること、認証評価の第4サイクルのスタートなど、私学においては大きな変革の年となる。併せて、南海トラフ地震の備え、BCP（事業継続計画）の作成は進めているが、復旧に向けた財再確保も併せて必要となるため法人と設置校の密接な連携を図っていくことが必須である。セクト主義にとらわれない広い視野を持ったゼネラリストの事務職員養成に注力していきたい。

4年間の図書館の歩みを振り返る

藍野大学中央図書館長　山田義博

図書館長として2期4年を努め終わり、節目の年なので、年報ではあるがこの4年間の図書館の歩みを簡単に振り返りたい。初年度は業務を外注していたが、2年目からは大学のスタッフ中心の図書館経営となった。外注の間に長年の懸案だった**蔵書点検**がはじめられたことは特筆しておく。2年目から始まった《**市民に開かれた図書館を目ざして**》をモットーとした館内設備で、老朽化していた諸施設が**最低限の近代化**がなされた。この点は、大学の新しい体制のなかでの図書館の在り方を今後も考えつつ、大きな方向性が決まればさらに可能な限りの整備の充実を今後とも図っていく必要がある。

通常業務は、身内をほめるわけにもいかないが、内外の協力も得て順調に行われるようになり、特に**移動図書館**などの活動は、学生の書籍離れに対する対策として有効であるとの高い評価もいただいた。学生の図書館利用も回復しているが、年々の学生の**活字離れの傾向**はいかんともしがたい。

他人ごとではなく、筆者も若いころは書店や図書館に行かない週はまれであったが、最近は年に一二度しか書店にはいかない。データベースの整備は、お金との戦いであり、今後もさらにきびしい戦いとなる予想である。大学にいれば学術関連の情報は無料で手に入る時代はとうに去り、これからは教員も情報収集に研究費のいくらをかけるか懸案する時代となっている。

図書館としては情報提供に役立つ用、ぎりぎりの努力をする。図書館間の相互利用のシステムは極めてすぐれてかつ安価であるので教員の皆様は大いに利用されたい。短大の移転がはじまり、図書館も大学の中央図書館としての役割の転換点にある。

（令和7年2月26日）

藍野大学開学 20 周年・藍野大学大学院看護学研究科開学 10 周年

記念式典

日時：2024（令和 6）年 11 月 30 日（土）

（於　藍野大学　藍野ホール）

【一部】記念式典次第
13：00〜13：30

開式の辞
国歌斉唱
理事長挨拶　　理事長　　小山　英夫
科学研究費補助金女性採択者表彰
学長挨拶　　学長　　佐々木　惠雲
副理事長挨拶　　副理事長　山本　嘉人
校歌斉唱
閉式の辞

【二部】記念講演
13：40〜14：30

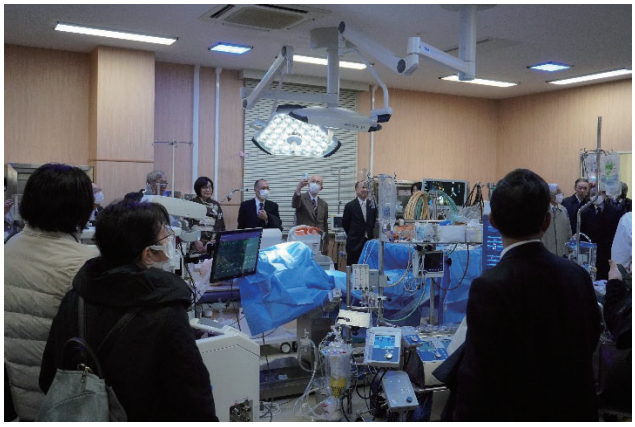
記念講演
講師　梅花女子大学　学長　河村　圭子　先生
『ある小規模私立女子大学の挑戦』

施設見学会
14：30〜15：00
＜模擬手術室見学会＞

情報交換会
15：00〜16：00
会場　藍野大学内レストラン
＜フーコバーナ＞

【当日の模様】

藍野大学開学20周年
藍野大学大学院看護学研究科開学10周年
記念式典

藍野大学開学20周年
藍野大学大学院看護学研究科開学10周年
記念式典

藍野大学開学20周年
藍野大学大学院看護学研究科開学10周年
記念式典